



令和3年につなげるための

グランシップ 誰もがWonderfulアート ワークショップ

2020



目をつむるスタジオ

～令和3年「目をつむる写真展-つむるつながる」に向けて～

2020 9/6 (sun)

静岡県コンベンションアーツセンター/グランシップ 6階展示ギャラリー

令和3年につなげるための「グランシップ 誰もが Wonderful アート」ワークショップ

「グランシップ 誰もが Wonderful アート」は、障がいの有無を超え、誰もが持つ豊かな感性や表現の素晴らしさを感じることができる場になることを願い開催されてきました。

本年は、「目をつむる」というちょっとした仕草の写真で、いろいろな人がともに暮らしていることを表す成実憲一さんの写真展と、障がい者支援施設「止揚学園」の創設者、福井達雨氏の四男として生まれ、幼時から重度の障がい者とともに暮らした経験をもつアーティスト、福井さんと止揚学園の子もたちとの作品展。それに県内特別支援学校の生徒・児童による「ウィズハート展」を重ね合わせて臨む予定でした。

4月、新型コロナウイルス感染拡大を受け、同展は次年度に延期となりました。しかし延期とは、よりよい「グランシップ 誰もが Wonderful アート」に向けた準備期間に他なりません。グランシップでは、ポストコロナに思いをはせ、ダンサーとして国際的な活動をくり広げながら障がい児を交えたワークショップにも取り組まれている岩下徹さんもお招きし、ささやかな、しかし安全に、そして安心して参加できる三つのワークショップを実施いたします。

白井嘉尚 (本ワークショップコーディネーター、静岡大学名誉教授)

講師紹介

福井 達雨 (ふくい たちる)
障がい者支援施設「止揚学園」創設者、福井達雨氏の四男として生まれ、幼時から重度の障がい者とともに暮らした経験をもつアーティスト。福井達雨氏の四男として生まれ、幼時から重度の障がい者とともに暮らした経験をもつアーティスト、福井達雨さんとは止揚学園の子どもたちとの作品展。それに県内特別支援学校の生徒・児童による「ウィズハート展」を重ね合わせて臨む予定でした。

岩下 徹 (いわした てる)
国際的な舞踊集団「ダンスワ」1971年設立。1983年ソロ活動開始。かつて「国際舞踊祭」の常務理事として活動。1996年に「国際舞踊祭」を退任し、現在は「ダンスワ」の代表を務める。2008年、NHKのテレビ番組「国際舞踊祭」の司会を務めた。その後も「ウィズハート展」など、障がい者との協働活動に積極的に参加している。

成実 憲一 (なるみ けんいち)
1971年京都市生まれ。一般社団法人ヴァリアスコネクションズ理事長、静岡大学教育学部美術科卒業。1995年からアート活動を始め、1996年から障がい者福祉に従事し、障がいのある人たちの表現を促すアートギャラリーを開設した。福祉とアートが交わる「目をつむるスタジオ」を企画、2015年から「目をつむるスタジオ」を開催。2018年に一般社団法人ヴァリアスコネクションズを設立し、福祉とアートが交わる活動をおこなう。

令和3年につなげるための
グランシップ 誰もが Wonderful アート
ワークショップ

●2020年9月29日(土)・30日(日)
アートが他者を思いやる力：親子で貼り絵を楽しもう！
講師：福井 達雨

●2020年9月5日(土)
今、人と人がつながるための即興ダンスワークショップ
講師：岩下 徹

●2020年9月6日(日)
目をつむるスタジオ
～令和3年「目をつむる写真展一つむるつながる」に向けて～
講師：成実 憲一

会場：静岡市清水区大宮町1-1-1 大宮ビル1F
TEL 054-281-0000
https://www.granship.jp

開催にあたって

「グランシップ 誰もが Wonderful アート」は、障がいの有無を超え、誰もが持つ豊かな感性や表現の素晴らしさを感じることができる場になることを願い開催されてきました。本年は、「目をつむる」というちょっとした仕草の写真で、いろいろな人がともに暮らしていることを表す成実憲一さんの写真展と、障がい者支援施設「止揚学園」の創設者、福井達雨氏の四男として生まれ、幼時から重度の障がい者とともに暮らした経験をもつアーティスト、福井達雨さんとは止揚学園の子どもたちとの作品展。それに県内特別支援学校の生徒・児童による「ウィズハート展」を重ね合わせて臨む予定でした。

4月、新型コロナウイルス感染拡大を受け、同展は次年度に延期となりました。しかし延期とは、よりよい「グランシップ 誰もが Wonderful アート」に向けた準備期間に他なりません。グランシップでは、ポストコロナに思いをはせ、ダンサーとして国際的な活動をくり広げながら障がい児を交えたワークショップにも取り組まれている岩下徹さんもお招きし、ささやかな、しかし安全に、そして安心して参加できる三つのワークショップを実施いたします。

白井嘉尚(本ワークショップコーディネーター、静岡大学名誉教授)

アートが他者を思いやる力：親子で貼り絵を楽しもう！
講師：福井 達雨
フェルトや布を使って貼り絵を作ります。一人ひとりの作品が集まる大きな大きな作品に「講師、そして止揚学園の生徒の作品を前にギャラリーワークも、アートの楽しみ方を、体験しながら学ぶワークショップです。展示作品はどなたでも自由に鑑賞いただけます。

●9月29日(土)・9月30日(日)
各日 10:00～13:30～
会場：4階展示ギャラリー
対象：中学生以下の子どもとその保護者
特別講師：成実憲一(福祉とアートのある教育・学生)
事前申込制・各回10名

今、人と人がつながるための即興ダンスワークショップ
講師：岩下 徹
障がいの有無も、ダンス経験も関係なし！
即興的な動きでも体もリラックスしながら「離れていてもつながる」あり方を探っていきます。

●9月5日(土)【午前の部】10:30～11:30
【午後の部】14:00～15:00+ (振り回りの時間)15:00～16:00
会場：4階展示ギャラリー
対象：小学3年生以上の子どもとその保護者
※「振り回りの時間」は大の、自由参加となります。
※一般障がい福祉と芸術関係者、イックグループ教育・学生および学生
※の方は「振り回りの時間」に是非と参加ください。
事前申込制・各回20名

目をつむるスタジオ
～令和3年「目をつむる写真展一つむるつながる」に向けて～
講師：成実 憲一
その白黒写真を出した人同士で、目をつむった写真を鑑賞したり、聞かれたり、ともに目をつむり、見えないつながりを感じてみましょう。
撮影した「目をつむる写真」はプリントしてお渡します。
展示作品はどなたでも自由に鑑賞いただけます。

●9月6日(日)
10:00～16:00 (最終は15:00まで) ※1時間後の入場制
会場：4階展示ギャラリー
対象：どなたでも参加いただけます。
撮影時間：各回30分
※申込時に希望の時間をお伝えください。

■参加者の皆様へのお願い
「目をつむるスタジオ」は、障がい者の方の参加を促すことを目的として開催されています。障がい者の方の参加を促すことを目的として開催されています。障がい者の方の参加を促すことを目的として開催されています。

令和3年につなげるための「グランシップ 誰もが Wonderful アート」ワークショップ チラシ

目をつむるスタジオ～令和3年「目をつむる写真展一つむるつながる」に向けて～

京都市山科区(2015年)、めぐりアート静岡(2016年)、京都市北区新大宮商店街(2018年)で開催した「目をつむる写真展」。これまで共に目をつむった人たちは1500人を超えました。そして、第4回目は2020年夏に開催される「グランシップ 誰もが Wonderful アート」の企画のひとつとして、再び静岡で開催する予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、本展は次年度へと延期となり、今年度は次年度に向けたワークショップ「目をつむるスタジオ」を実施いたします。

「目をつむるスタジオ」とは、参加者同士がお互いの目をつむる写真を撮りあうフォトスタジオです。このワークショップを出発点とし、次年度に開催する令和3年「目をつむる写真展一つむるつながる」に向けて、静岡県内各所で「目をつむるスタジオ」や撮影会などを実施する予定です。

目をつむると、普段見られない表情が映し出されます。その表情から、その人の新たな一面に気づくことができるでしょう。

また、目をつむることは他者との寛容的な関わり(許す)を意味します。多様な価値観を持った他者を受け入れていくことは、アート、文化、福祉の大切な役割です。

さらに、目をつむることは自分自身の心に目を向けることも意味します。新型コロナウイルス感染症の流行により、生活様式だけではなく、生き方そのものを変えざるを得ない状況の中、そのような静かな時間も時には必要ではないでしょうか。

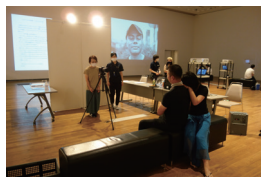
目をつむることに思いを巡らせながら、共に目をつむることで自分自身や他者との関わりを見つめ直すきっかけになったり、見えない「つながり」を感じたり、新たな「つながり」が生まれることを願っています。



成実憲一 (なるみ けんいち)
1971年京都市生まれ
一般社団法人ヴァリアスコネクションズ理事長
静岡大学教育学部美術科卒業
1995年からアート活動を始め、1996年から障がい者福祉に従事し、障がいのある人たちの表現を発信するアートギャラリーを開設したり、展覧会やワークショップを多数企画。2015年から「目をつむる写真展」を開催。2018年に一般社団法人ヴァリアスコネクションズを設立し、福祉とアートがまじわる活動をおこなう。

目をつむるスタジオ

参加者同士がお互いの「目をつむる写真」を撮りあうフォトスタジオ。それぞれの人たちのストーリーに触れつつ、カメラマンになったり、モデルになってポーズを考えたり、目をつむったり…。そんな“撮りあいっこ”が繰り返された。



【目をつむるスタジオの進めかた】

- ① 目をつむる写真展の紹介
- ② 参加者同志でお互いの目をつむる写真を撮影
- ③ その場でプリントしてプレゼント

これまでの「目をつむる写真展」の紹介

第1回から第3回までの「目をつむる写真展」の中から、それぞれ選び出した写真のライドショーを壁面投影した。



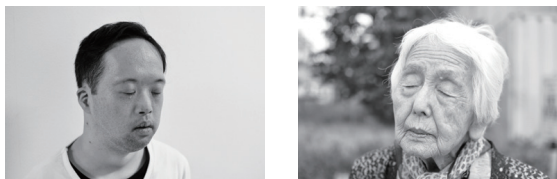
第1回 目をつむる写真展「ヤマシナポートレート」
2015年2月5日ー2月14日
ラクト山科4Fアトリウムデッキ（京都市）
294枚の写真の中から50枚のライドショー（5分）



【左】第2回 目をつむる写真展「ツムルツナガル ポートレート」
2016年1月26日ー2月14日
「めぐりアート静岡」ギャラリー・とりこ（静岡市）
333枚の写真の中から70枚のライドショー（7分）

【右】第3回 目をつむる写真展「つむるつながる」
2018年2月13日ー2月24日
新大宮商店街事務所（京都市）
343枚の写真の中から50枚のライドショー（5分）

目をつむると、うかんでくる、あのひとの顔。



目をつむったあなたの顔がすぎ。



目をつむったじぶんの顔、見たことある？



目をつむると、こころがうごく。



目をつむるとやさしくなれるのはなぜ？



目をつむることは、ゆるすこと。



つむる、つながる、つたわる、おもひ。



「目をつむるスタジオ」参加者のこえ

目をつむると、いつ撮られているかわからないけれどワクワクするみたい。いろんな感情が湧き出た面白い撮影でした。撮る撮られるの関係性も初対面の人同士、仲の良い人同士によって表情もさまざま、見ていて楽しかったです。

目をつむることで優しい印象になって面白く、モノトーンもまたその人の持つ雰囲気が浮き上がってきて良かったです。自分でも、もっと撮ってみたいくなりました。

ワークショップは久しぶりの体験でしたが、ワークのすすめ方が良かった。自分の知らない自分を引き出されたあっという間の1時間でした。

撮るのも撮られるのも、ずっと目をつむってみたいです。

家族の写真をとり、とても素敵な思い出になりました。

はじめに、このワークショップにいたるまでのお話が伺えたのが良かった。もっと違う自分にも出会える気がしたイベントでした。